

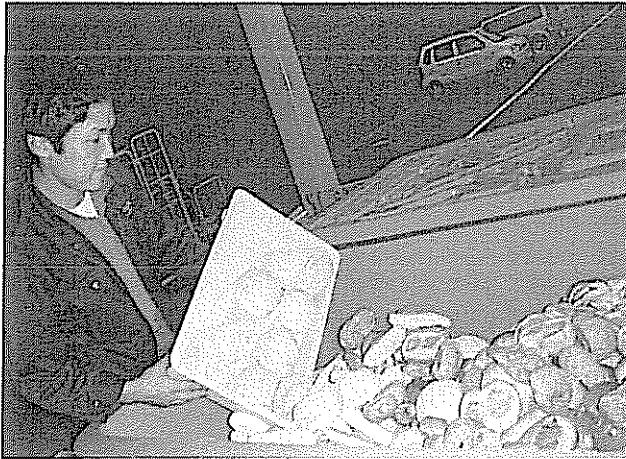
## 飼料化への取組み（液状飼料工場への搬入）

1 循環資源再生利用ネットワークでは液体飼料工場への搬入をしています。

我々は

- 1) 食品廃棄物の一部を限定して**パイプロ**（パイプロダクト＝食品工場からでる副産物及び未使用食品）と呼んでいます。（廃棄物と区別しています。）
- 2) 欧州から**リキッドフィーリングシステム**（液餌システム）を輸入した養豚業者がパイプロの受け皿となっています。
- 3) 粉体状（とうもろこしの粉）の飼料から液体状の飼料（小麦製品）に転換し高級豚の生産に活用。また、豚に均一に液餌が供給されるため平均して発育する利点があります。

(1) パイプロの回収（パン）



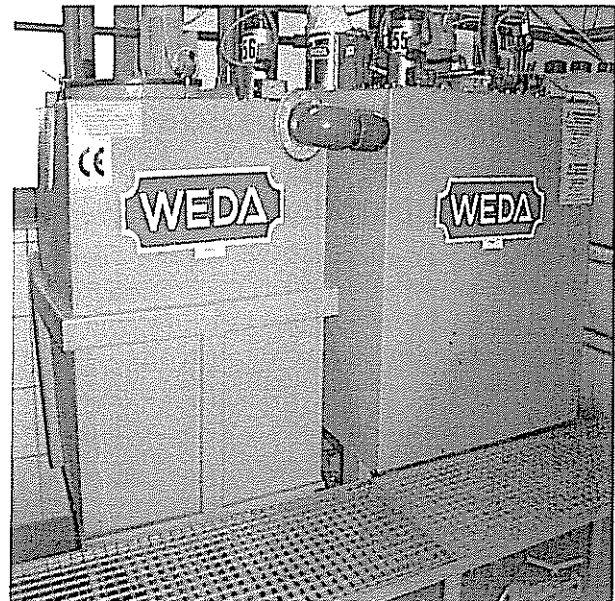
(2) パイプロの投入



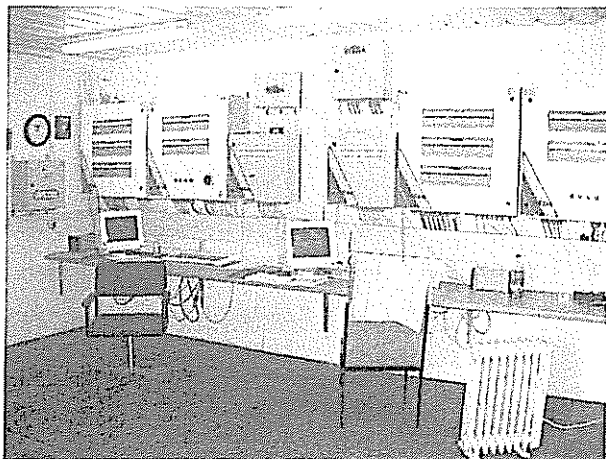
(3) 攪拌タンクにて攪拌



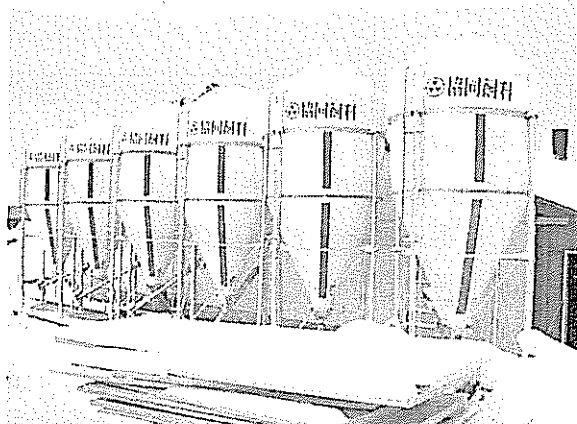
(4) ビタミンなどの微量要素を配合



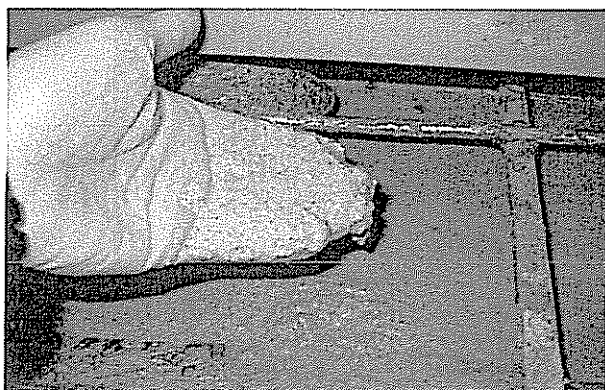
(5) コンピュータによる自動配合システム



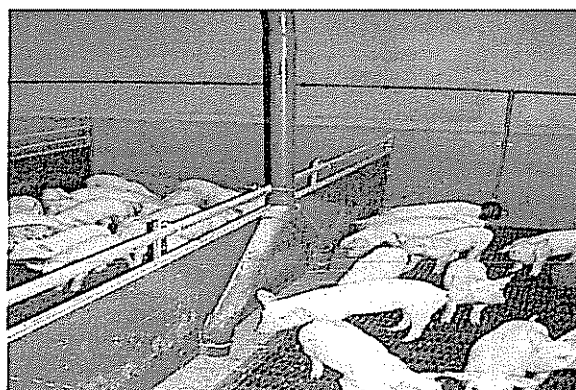
(6) ビタミンなどの保管タンク



(7) 液餌



(8) 給餌風景



## 2 リキッドフィーリングシステム（液餌システム）の問題点

- 1) 食品製造業、食品卸売業などの多量に均質成分のバイプロが発生するところに限定され、食品小売業、外食産業などの少量分散型、均質性の低下、異物混入が高まるところには向かない。
- 2) おからなどのリノール酸が多いものは、使用量に制限がある。
- 3) 野菜くずなどは繊維質と水分が多いので飼料には向かない。